

事例1：英虞湾における遊休地の利用による干潟の再生と企業の参画

取組の背景・経緯

志摩半島の南部に位置する英虞湾では、貧酸素水塊や硫化水素の発生や二枚貝に有害なヘテロカプサ赤潮が頻繁に発生し、アサリが急激に減少したり、真珠養殖や自然体験型の観光業を推進する上での大きな課題となっている。そのような中、地元の真珠養殖業者等が「自分たちの海を何とかしたい」と立ち上がり、自主的に小規模な干潟造成試験を開始した。

その試験で良好な結果が得られたこともあり、JST（科学技術振興機構）の支援による地域結集型共同研究事業「英虞湾再生プロジェクト」の実施につながり、堤防で遮断された干拓地（遊休地）に海水を導入することで干潟に戻すことが出来ることが実証された。その成果をもとに、モデル海域（阿児町立神石淵）で海水導入による干潟の再生が開始され、現在は、地元企業の協力も得て、第2、第3の干潟再生の取組が進められている（右図参照）。

平成26年には、三重県や志摩市、企業が共同で取り組んできた活動が評価され、日立環境財団の第41回環境賞「優良賞」を受賞した。



干潟の再生箇所（企業の参画は上記②と③）
出典「豊かな英虞湾をつくる干潟再生の取組」環境省中部地方環境事務所

取組の内容

かつて干潟であった遊休地に、再び海水を導入して干潟に再生しようとする取組

＜実施体制＞

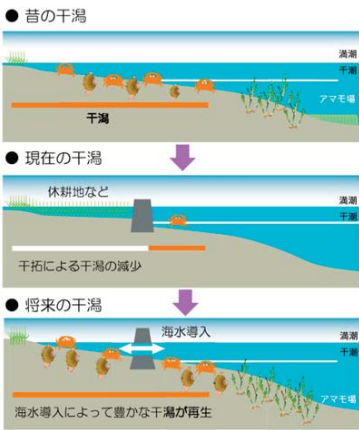
当初は三重県水産研究所が実施主体となり、JSTの研究開発成果実装支援事業として干潟再生（①阿児町立神石淵）を実施。平成24年8月には、地元企業の協力を得て、第2の干潟再生（②浜島町迫子）が実現。

平成24年9月には、環境省中部地方環境事務所が実施主体となり、地元企業の協力を得て、第3の干潟再生（③大王町船越）が実現した。現在、いずれの取組も志摩市が実施主体となり、様々な関係者と連携・協力した取組が続けられている。

企業は、これらの取組に対して、所有地（遊休地）や所有施設の一部を提供する形で協力している。

＜活動状況＞

○水門を開放して遊休地に海水を導入（③大王町船越）



干潟再生のイメージ

出典「英虞湾の環境再生へ向けた住民参加型の干潟再生体制の構築」三重県水産研究所

水門開放前後の様子（平成24年9月14日）

出典「ホテル近鉄アクアヴィア伊勢志摩における干潟再生」伊勢志摩国立公園干潟再生報告会資料

取組の種類 干潟の保全・再生

○再生干潟で様々な関係者が連携して自然ふれあい活動を実施（③大王町船越）

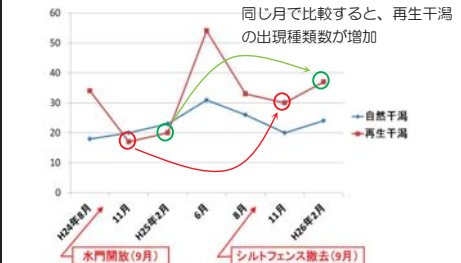
- ＜生き物観察会＞
 - 平成25年2月10日（参加者：25名）
 - 生き物種数：堤防前自然干潟23、再生干潟27
 - 平成25年6月8日（参加者：18名）
 - 生き物種数：堤防前自然干潟34、再生干潟38
- ＜アオサノリの収穫体験＞
 - 平成26年1月6日
 - アオサノリ網2枚を再生干潟内に設置
 - 平成26年3月2日（参加者：13名）
 - 収穫体験イベントを開催



出典「生物多様性に関する取り組み」近鉄グループホールディングス（株）HP
「ホテル近鉄アクアヴィア伊勢志摩における干潟再生」伊勢志摩国立公園干潟再生報告会資料

取組の成果

○再生干潟で生物の種類数が増加（③大王町船越）



水門開放後の生物相（出現種類数）の変化

注「自然干潟」とは、潮受堤防前面の干潟を指しています。

水門開放後の干潟の酸素状態

出典「アクアヴィアの干潟再生～1年半の成果～」環境省志摩自然保護官事務所

取組のポイント

- かつて干潟であった遊休地に、潮受け堤防の水門を開放することにより、再び海水を導入して干潟の再生を目指す取組である。
- 全国の沿岸域には遊休地などの未利用地が多く存在しており、このような土地を干潟に再生しようとする取組は、未利用地の活用という観点からも有用な一方案となる可能性を示している。
- 遊休地を干潟として再生するためには、土地所有者の理解を得ることはもちろん、地目の変更など様々な手続きが必要となり、これらをいかに円滑に行うかが取組を進めていくための重要なポイントとなる。本取組では、沿岸域を管理する行政部局間の連携関係や体制が構築され、干潟の再生に係る分野横断的な議論ができるようになったことが、取組の推進に大きく寄与したとされている。
- 企業（宿泊施設）が協力した理由としては、干潟の再生という環境保全活動がCSR活動に位置付けられること、遊休地となっている所有地を活用できること、所有地で自然ふれあい行事等の開催を続けていくことによって将来的に利用者や宿泊者の増加が期待できること、などが挙げられた。
- 志摩市では「里海づくり」を市の重点施策の一つとして掲げており、最近では、ふるさと納税による収益も取組を進めていくための一助となっている。

参考 URL

- 志摩市 政策推進部 里海推進室「新しい里海のみち・志摩」(<http://www.satoumi-shima.jp/>)